

ぱれっとスタッフによる 福祉用語解説

似ている名前の場所として、「地域包括支援センター」があります。こちらは略して「包括(ホウカツ)」と耳にするところです。地域包括支援センターは、主に高齢者を対象とした場所で、地域で安心して生活が続けられるようにサポートする総合相談窓口になっています。

一方で、「地域活動支援センター(地活(チカツ))」は障がいのある方を対象とし、地域で自立した生活を送れるように支援する場所です。

主な役割

- ▶居場所の提供
- ▶相談、生活支援
- ▶社会参加の促進

就労を目的としない活動も多く含まれていて、利用者のニーズや状況に合わせて、多様なサービスが提供されているのが特徴です。

●事業内容

各センターにより活動内容が異なり、大まかに基礎的事業の上に機能強化事業(I型、II型、III型)があるという2階建て構造になっています。

- ▶I型：社会基盤との連携強化のための調整や地域住民ボランティア育成など
- ▶II型：雇用・就労が困難な在宅障害者に対し、機能訓練、社会適応訓練、入浴等のサービスの実施
- ▶III型：援護事業の実績を概ね5年以上有し、引き続き援護事業を実施

かつては、共同作業所(小規模作業所)と呼ばれていた民間の事業所が、2006年10月から「障害者自立支援法(現・障害者総合支援法)」により新たなサービス体系となり地域活動支援センターなどに移行が行なわれました。

ぱれっとの職員による「福祉用語解説」。今回は通称「地活(チカツ)」と呼ばれている「地域活動支援センター」について解説します。

●利用料金

補助金での運用になっているため、利用自体に料金が発生することはほとんどありません。その他必要に応じてかかる費用(食費など)は、自己負担となります。デイサービスに似た施設ではありますが、目的(それに伴う活動内容)と利用料が異なります。

●渋谷区の地域活動支援センター

渋谷区精神障害者地域生活支援センター「さわやか一む」(代々木)と「地域活動支援センターふれあい」(笹塚)の2つがあります。利用は、渋谷区在住で、精神障がい者およびその家族が対象になっています。

(活動内容)

- ▶相談受付
- ▶オープンスペースの提供
- ▶日常生活の支援(レクリエーション活動など)

病気や生活の中で困っていることなどの相談や外出のきっかけや交流の場として利用できるオープンスペースがあります。

●他区の取り組み(厚生労働省HPより)

「新宿西共同作業所ラバンス」(新宿区)

▶ボランティア講師の活用

小物づくり、絵画、太極拳、料理、パソコンなど様々な活動を行っており、区内のボランティア講師を活用している。そのため、多彩なプログラムを組むことができる。

月初に利用者が主体のミーティングを実施して、なるべく能動的な参加が可能なように月間の計画を練り広く活動を実施中。

たまり場ぱれっとの活動と似ているところもあります。利用を希望する場合は、登録の手続きが必要ですので一度施設に問い合わせをしてみてください。(たまり場ぱれっと 武井琴美)